



2023年3月29日

各 位

会 社 名 株式会社マーキュリアホールディングス
代表者名 代 表 取 締 役 豊島 俊弘
(コード番号：7347 東証プライム)
問合せ先 執 行 役 員 経 営 管 理 統 括 滝川 祐介
(TEL. 03-3500-9870)

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2021年12月6日に「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」を提出し、その内容について開示しております。2022年12月末時点における計画の進捗状況等について、下記の通り作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の2022年12月末時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況はその推移を含め、以下のとおりとなっており、「流通株式時価総額」については基準を充たしておりません。当社は、「流通株式時価総額」に関して、当社が掲げる2025年12月期を最終年度とする中期利益計画期間中の2023年12月期までを目途に上場維持基準を充たすために、引き続き各種取組を進めてまいります。

		株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式 時価総額 (億円)	流通株式 比率 (%)	平均 売買代金 (億円)
当社の 適合状況 及び その推移	2021年6月末時点 (移行基準日時点)	3,466	81,767	65	46.3	-
	2022年12月末時点	4,230	122,169	74	56.8	0.35
上 場 維 持 基 準		800	20,000	100	35	0.2
適 合 状 況		適合	適合	不適合	適合	適合
当初の計画に記載した 計画期間		-	-	2022年12 月期～2023 年12月期	-	-

※当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の実施状況及び評価

当社は、2021年12月6日に公表しました「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」において、①成功報酬の最大化、管理報酬の積み上げ、自己投資収益の拡充による中期利益計画の達成、②ビジョン、ミッション及び経営理念を基礎としたIR/PRの充実による市場評価の浸透、③持株会社をプラットフォームとした機動的な資本政策による成長基盤の確立を図ることを掲げました。

2022年12月末時点においてはプライム市場の上場維持基準について「流通株式時価総額」の基準は満たしていませんが、「流通株式時価総額」は2021年6月末時点（移行基準日時点）と比較して、改善しており、上場維持基準の適合に向けた取組は順調でありますので、今後も、計画書における基本方針に基づき、中期利益計画の達成、IR/PRの充実による市場評価の浸透、資本政策による成長基盤の確立に引き続き取り組んでまいります。

取組の実施状況及び評価は以下の通りです。

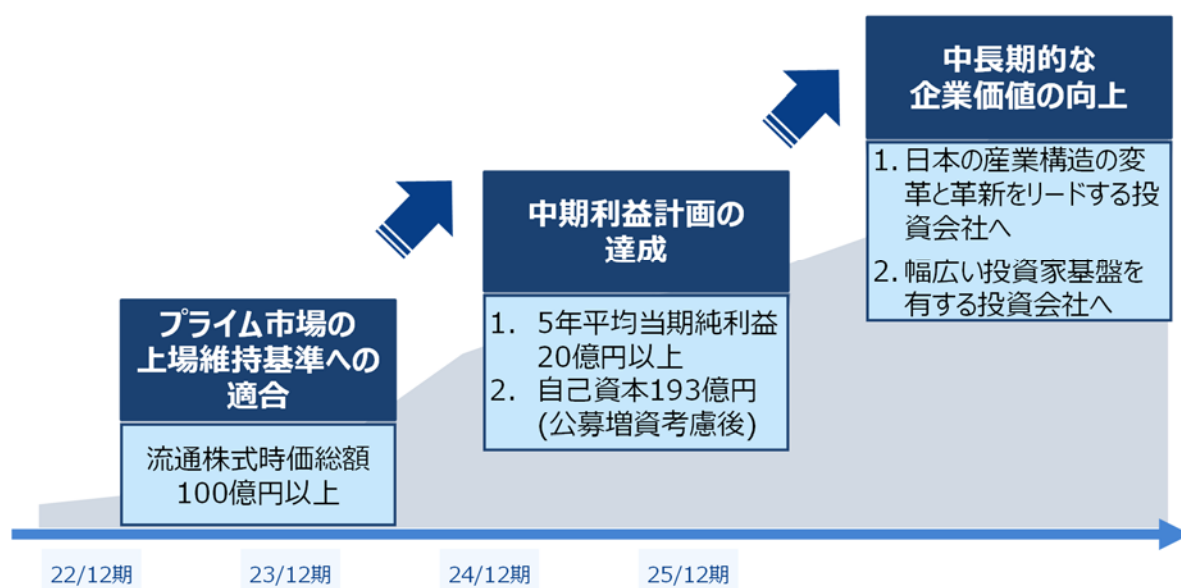
（基本方針）

当社は、上場会社として、プライム市場の上場維持基準への適合（2022年12月期～2023年12月期）、中期利益計画の達成（2025年12月期）を通過点に、中長期的な企業価値の向上を目指します。

具体的には、バイアウトファンド事業、Spring REIT事業、資産投資ファンド事業の既存事業に加えて、新規企画事業も推進することで、成功報酬の最大化、管理報酬の積み上げ、自己投資収益の拡大を図るとともに、持株会社体制下で、IR戦略、資本政策を強化し、事業とコーポレートの循環体制を築きます。

中長期的には、1)日本の産業構造の変革と革新をリードする投資会社、2)幅広い投資家基盤を有する投資会社となるべく、引き続き中長期的な視点で企業価値の向上を目指します。

中長期的企業価値の向上へ向けたロードマップ



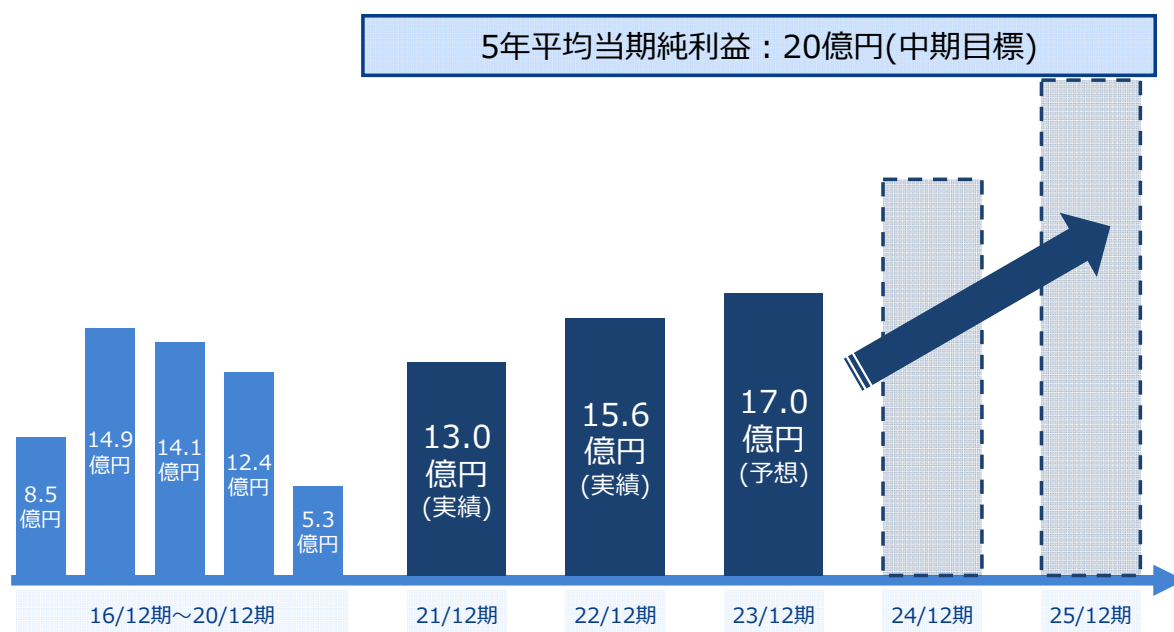
(業績向上による中期利益計画の達成)

当社は、2025年12月期までを計画期間とする中期利益計画として5年平均当期純利益20億円を目標としていますが、これまでの当期純利益は2021年12月期実績が13.0億円、2022年12月期実績が15.6億円と推移し、2023年12月期予想は17.0億円を見込んでおります。

2022年12月期における主な実績は以下になります。

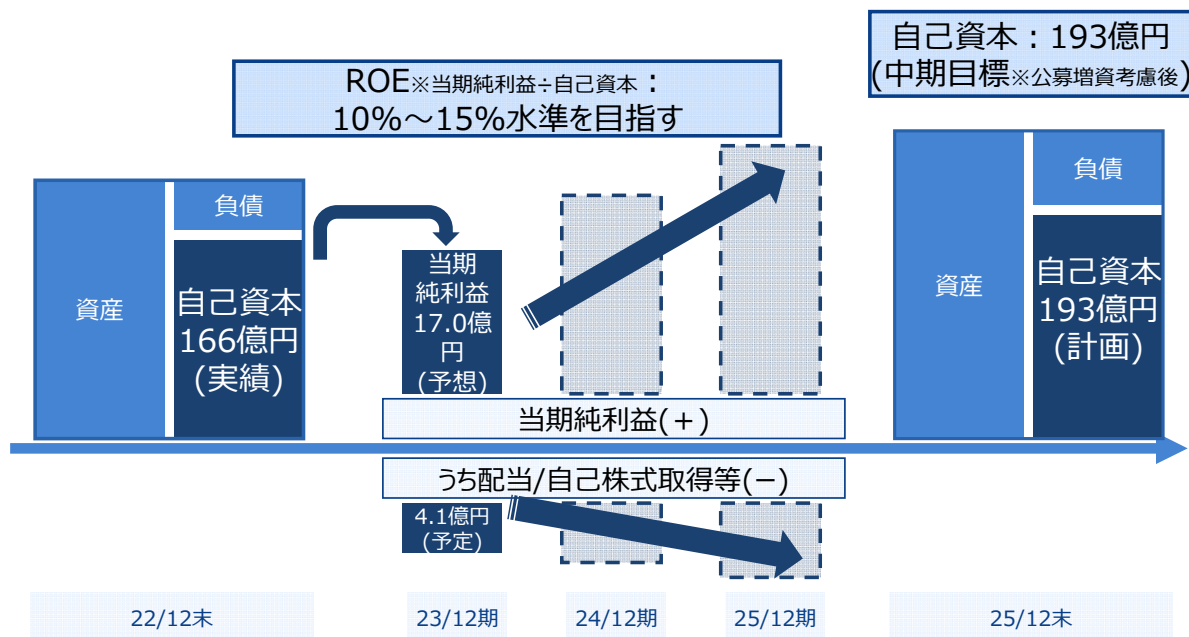
成功報酬の最大化	・Spring REITにおいて約330億円の新規資産を取得し、約3.1億円の成功報酬を獲得
管理報酬の積み上げ	・上場前後に組成したバイアウト分野及び航空機分野において、後継ファンドを組成し、管理報酬を積み上げ ・バイアウト2号ファンドを269億円にて1stクローズ(ファイナルクローズ目標:400億円~500億円) ・航空機2号ファンドを約55億円にて1stクローズ(ファイナルクローズ目標:150億円~180億円)
自己投資収益の拡充	・好調な運用を続けるバイアウト1号ファンドにおいて、投資先のExitを行い、自己投資収益を計上

今後は好調な運用を続けているバイアウト1号ファンドが成功報酬ステージを迎えること、既存ファンドの後継ファンドとして順調に組成を進めているバイアウト2号ファンド及び航空機2号ファンドの管理報酬が増加すること、上場前後に組成したファンドからの回収による自己投資収益が増加することが見込まれますので、これらの損益貢献により5年平均当期純利益20億円の達成を目指します。



また、当社は、中期利益計画のもう一つの指標として2025年12月末までに自己資本を193億円(公募増資考慮後)とすることを目標としていますが、2022年12月末における実績自己資本は166億円です。

今後は5年平均当期純利益の目標を目指す中で、利益を積み上げることにより自己資本目標の達成を目指しますが、今後の計画期間においては、並行して配当等の資本政策を行うことでROE10%~15%の水準を目指します。



(IR/PR の充実による市場評価の浸透)

当社は「ファンドの力で、日本の今を変える」をミッションに掲げ、「幸せの総量を最大化する」、「クロスボーダー（国の壁、心の壁、世代の壁を超えて）」、「全ては事業のために」、「5年後の常識」を経営理念に掲げて事業を推進しております。

当社ではより多くの投資家の皆様に当社のミッション、事業、ファンド投資先の状況等を知って頂くべく、ホームページのリニューアル（投資先情報の発信、英文開示の充実）、機関投資家向け説明会の開催、個人投資家向け説明会の開催等、投資家の皆様と積極的な対話を行いました。

2022年12月期の主な実績は以下になります。

ホームページのリニューアル (投資先情報の発信、英文開示の充実)	<ul style="list-style-type: none"> ホームページをリニューアルし、ミッション/ビジョン/経営理念を再整理 当社事業をより身近なものと感じて頂くべく、メディアスペースをリニューアルし、当社の投資理念や投資先情報の発信を開始 海外投資家を呼び込むべく、英語サイトも同時にリニューアルを行い、決算情報やニュースリリース等の情報の充実を図るとともに、よりタイムリーな情報提供を開始
機関投資家向け説明会	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の機関投資家向け説明会を開催 説明会には従来の代表取締役とコーポレート部門責任者に加えて、事業部門責任者も登壇 機関投資家向け説明会の内容について、より多くの投資家に対して情報提供を行うべく、当社ホームページ上において書き起こしを掲載
個人投資家向け説明会	<ul style="list-style-type: none"> 証券会社やIR会社が主催する個人投資家向け説明会を計6回開催

今後も投資家の皆様との積極的な対話を継続することで、当社のミッション、事業、ファンド投資先の状況等を知って頂き、当社が想定する潜在的な価値の実現に努めてまいります。

想定株式価値			時価総額
想定株式 価値の 構成要素	アップサイド価値 (成功報酬)	成功報酬の 期待値	当社が 想定する 潜在的価値
	事業価値 (管理報酬)	長期契約に基づく 管理報酬基盤を有する 事業価値	
	純資産価値 (自己投資)	自己資本166億円 + 含み益の 資産価値	150億円 (730円/株) ※2023年3月24日終値

(資本政策による成長基盤の確立)

当社の2021年6月末時点(移行基準日時点)の流通株式比率は46.3%でしたが、2021年12月に行った公募増資により新株発行を行ったこともあり、2022年12月末時点における流通株式比率は56.8%となりました。2022年12月期は自己株式の取得も行いましたが、基本的には現時点における流通株式比率を基準として「流通株式時価総額」の基準の充足を目指します。

以 上